

「向ヶ丘遊園駅南側まちづくり方針」を策定しました

川崎市はこのたび、川崎市多摩区の向ヶ丘遊園駅南側まちづくりについて、地域資源を活かした賑わいの創出や交通環境の課題改善等に向け、まちづくりの基本的な方向性を示し、生田緑地の玄関口にふさわしい“緑に包まれた”駅前空間の創出等を官民連携により推進していくため、「向ヶ丘遊園駅南側まちづくり方針」を策定しました。

本方針の策定にあたりましては、令和 8 年 5 月 1 1 日（月）から令和 8 年 6 月 1 0 日（水）までの期間において、本方針案に関する市民の皆様の御意見を募集するとともに、オープンハウス型の市民説明会を市内 2 か所で開催し、78 通（121 件）の御意見をいただきました。

今回策定した本方針においては、意見募集の結果等を踏まえ、ユニバーサルデザインに関する一部文章の加筆などの修正を行いました。

1 意見募集期間

令和 8 年 5 月 1 1 日（月）から令和 8 年 6 月 1 0 日（水）まで

2 意見の件数

78 通（121 件）

意見提出数（意見件数）		78 通（121 件）
内 訳	電子メール（専用フォーム）	26 通（63 件）
	郵 送	0 通（0 件）
	F A X	0 通（0 件）
	持 参	3 通（9 件）
	その他（説明会等）	49 通（49 件）

3 添付資料

（1）向ヶ丘遊園駅南側まちづくり方針（案）の策定に伴うパブリックコメントの実施結果と主な変更点について

【資料 1】

（2）向ヶ丘遊園駅南側まちづくり方針【概要版】【資料 2】

4 その他

意見募集の実施結果及び同方針の本編については、川崎市ホームページに掲載しています。

<https://www.city.kawasaki.jp/templates/pubcom/500/0000186563.html>



▲市ホームページ

問合せ先

川崎市まちづくり局登戸区画整理事務所 佐藤
電話 044-933-8512（外線番号のみ）

向ヶ丘遊園駅南側まちづくり方針（案）の策定に伴うパブリックコメントの実施結果と主な変更点について

1 概要

向ヶ丘遊園駅南側まちづくりについて、地域資源を活かした賑わいの創出や交通環境の課題改善等に向け、まちづくりの基本的な方向性を示し、生田緑地の玄関口にふさわしい“緑に包まれた”駅前空間の創出等を官民連携により推進していくために、「向ヶ丘遊園駅南側まちづくり方針（案）」を取りまとめ、市民の皆様から御意見を募集しました。

その結果、78通（意見総数121件）の御意見をいただきましたので、御意見の内容とそれに対する市の考え方を次のとおり公表します。

2 意見募集の概要

題名	向ヶ丘遊園駅南側まちづくり方針（案）に関する意見募集について
意見の募集期間	令和8年5月11日（月）～令和8年6月10日（水）
意見の提出方法	電子メール（専用フォーム）、郵送、FAX、持参等
意見募集の周知方法	・市政だより（令和8年5月号掲載） ・市ホームページ ・資料の閲覧（かわさき情報プラザ、各区役所市政資料コーナー、支所・出張所、図書館（本館・分館）、市民館（本館・分館）、教育文化会館、登戸区画整理事務所） ・オープンハウス型市民説明会（令和8年5月27日・5月31日開催）
意見の公表方法	・市ホームページ ・資料の閲覧（かわさき情報プラザ、各区役所市政資料コーナー、支所・出張所、図書館（本館・分館）、市民館（本館・分館）、教育文化会館、登戸区画整理事務所）

3 意見募集の結果

意見提出数（意見件数）		78通（121件）
内 訳	電子メール（専用フォーム）	26通（63件）
	郵 送	0通（ 0件）
	F A X	0通（ 0件）
	持 参	3通（ 9件）
	その他（説明会等）	49通（49件）

4 御意見の内容と対応

(1) 実施結果

ア 実施期間：令和8年5月11日（月）～令和8年6月10日（水）

イ 意見総数：78通121件

ウ 意見の対応区分

項目	A	B	C	D	E	計
① 方針全般について		6				6
② まちづくりの基本方針（1）に関する取組について （生田緑地の玄関口にふさわしい“緑に包まれた”駅前空間）		24	12	1		37
③ まちづくりの基本方針（2）に関する取組について （大学を活かした“人と人をつなげる”交流拠点）		7				7
④ まちづくりの基本方針（3）に関する取組について （多世代が向ヶ丘遊園に“住み続けたい”と思える住環境）	1	20	17	4		42
⑤ 方針図等に関する取組について			19	2	1	22
⑥ その他					7	7
合計	1	57	48	7	8	121

【対応区分】 A：意見を踏まえ、反映したもの

B：意見の趣旨が案に沿ったもの

C：今後の参考とするもの

D：質問・要望で、案の内容を説明するもの

E：その他

(2) 主な意見と本市の対応

ア 主な意見

方針の全般・まちづくりの基本方針・方針図等に関する期待・賛同する御意見・御要望などが寄せられました。

イ 本市の対応

いただいた御意見は、その趣旨が方針案に沿ったものや、方針案に対する御要望などであったことから、一部御意見を踏まえ、案の趣旨をより分かりやすく示すために、まちづくりの基本方針に関する説明の追記等を方針案に加え、「向ヶ丘遊園駅南側まちづくり方針（以下「本方針」という。）」を策定いたします。

① 方針全般について（ 6 件）

No	意見(要旨)	市の考え方	対応区分
1	「向ヶ丘遊園駅南側まちづくり方針（案）」に、私も賛同・歓迎し、地域住民として、大変期待しております。 【ほか同趣旨2件】	向ヶ丘遊園駅南側地区（以下「本地区」という。）は、地域資源を活かした賑わいの創出や交通環境の課題改善に向けて、基本的な方向性を示した本方針に基づき、生田緑地の玄関口にふさわしい“緑に包まれた”駅前空間の創出、大学を活かした“人と人をつなげる”交流拠点の形成や多世代が向ヶ丘遊園に“住み続けたい”と思える住環境の形成を官民連携により推進してまいります。	B
2	駅前を歩きやすく居心地のいい空間にし、人中心の広場空間を設けていく方針について賛同いたします。 加えて、生田緑地や大学など地域の特徴を活かしたまちづくりに期待します。 【ほか同趣旨1件】		B
3	魅力的な地域資源が集積していますが、それらを結びつける駅前の滞在空間は十分とは言えません。高齢者が気軽に休憩できる場所、子育て世代が安心して過ごせる場所、学生が地域と関わるきっかけとなる場所など、多世代が自然に集い交流できる空間づくりが求められていると感じます。	本方針に基づき、地域資源である生田緑地の自然豊かな緑が身近に感じられ、高齢者や子育て世帯、学生をはじめとした多様な人々が集い、交流することができる空間づくりに取り組んでまいります。	B

② 基本方針（１）生田緑地の玄関口にふさわしい“緑に包まれた”駅前空間 に関する取組について（ ３７ 件）

No	意見（要旨）	市の考え方	対応 区分
4	向ヶ丘遊園駅南側を、生田緑地の玄関口として緑豊かな駅前空間に整備する考え方に賛同します。 【ほか同趣旨 5 件】	本方針では、まちづくりの基本方針「（１）生田緑地の玄関口にふさわしい“緑に包まれた”駅前空間」を位置づけ、主な取組として、駅前を緑に包まれた「人中心の広場」として、若者・子育て世帯から高齢者までの多世代が、生田緑地の自然を身近に感じる、緑豊かで居心地の良い広場空間を官民連携で形成してまいります。	B
5	緑に包まれた駅前空間の創出は、生田緑地の魅力を日常的に感じられるまちづくりとして非常に期待できる取組だと思います。 【ほか同趣旨 3 件】		B
6	駅前広場を人中心の交流空間として整備することで、滞在やにぎわいが生まれ、地域の魅力向上に大きく寄与すると感じます。 【ほか同趣旨 8 件】	本方針では、まちづくりの基本方針「（１）生田緑地の玄関口にふさわしい“緑に包まれた”駅前空間」を位置づけ、主な取組として、駅前に「人中心の広場」を創出し、地域資源である生田緑地や文化施設、地域の商店街等と連携して取り組む多様な活動を通じて、まちの魅力の発信や、賑わいを創出してまいります。	B
7	現在の駅前は駐輪場に自転車が並べられていて、とても見るに堪えないです。計画に記載されているように、人中心の広場空間にすべきです。 【ほか同趣旨 1 件】		B
8	向ヶ丘遊園南口の広場に 1 本の木があります。それを中心とした広場を作って欲しい。	本方針では、広場空間について、地域資源である生田緑地や文化施設、地域の商店街等と連携して取り組む多様な活動を通じて、まちの魅力の発信や、賑わいを創出することとしております。いただいた御意見は今後の取組の参考とさせていただきます。	C
9	駅近くに周辺マップや「はなもす」等、観光案内資料コーナーを設置・駅前に川崎市の採れたて野菜や特産品、お土産になる小物類販売のテント設置して欲しい。		C

No	意見（要旨）	市の考え方	対応 区分
10	向ヶ丘遊園駅南口の駅前空間の価値向上にあたり、昼間だけでなく夕方から夜間にかけての時間帯における経験価値の向上という視点を取り入れることを提案します。えきまえ遊園パークにおいても、夕方から夜間の時間帯を対象とした社会実験等を実施し、利用者ニーズや運営手法の検証を行うことを提案します。 【ほか同趣旨 1 件】	本方針において、広場空間では、地域資源である生田緑地や文化施設、地域の商店街等と連携した多様な活動を通じて、まちの魅力の発信や賑わいの創出を図ってまいります。また、えきまえ遊園パーク等における社会実験の実施し、検証結果を踏まえながら、駅前空間の価値向上に取り組んでまいります。	C
11	タワーマンションや、その他高層建築物を許可しないでください。生田緑地の丘につながっていく雰囲気、広がっていくイメージを大事にしてください。	本方針は、向ヶ丘遊園駅南側のまちづくりの方向性を示すものであり、現時点で具体的な建築計画が定まっていない状況です。今後、地権者等との協議を進めながら、生田緑地の自然を身近に感じながら、緑豊かで居心地の良い広場空間の創出に向けた取組を進めてまいります。	D
12	駅前に酔客がたむろすることが多々あり、翌朝には飲食物のゴミが散乱する風景を多く見かける。喫煙場所があることもあってなのか、そこで喫煙するだけではなく、広場周辺でもポイ捨てされたタバコの吸い殻も多い。駅前が自然的環境できれいに整備されることで、そういったことが誘発されないような環境づくりができると良いと思う。 【ほか同趣旨 1 件】	今後のまちづくりの検討の進捗状況にあわせて、いただいた御意見も参考にしながら、快適で良好な駅前環境の形成に努めてまいります。	C

No	意見（要旨）	市の考え方	対応 区分
13	向ヶ丘遊園南口の喫煙所について、受動喫煙防止措置が確実に図られて囲いのある喫煙所の設置等をお願いいたしたく存じます。 【ほか同趣旨 1 件】	向ヶ丘遊園駅南口の現在の指定喫煙場所につきましては、駅前広場の構造上、スペースが狭あいで、厚生労働省が示している屋外分煙施設の技術的留意事項を踏まえたパーテーションの設置などの対応が困難となっておりますが、引き続き関係団体等と協議調整を進めてまいります。	C
14	排煙はほとんど無害化して室外に放出する喫煙室を設けて欲しい。ふるさと納税で設置資金を集めるのはいかがでしょうか。		C
15	駅前から生田緑地へとつながる歩行空間において、街路樹や植栽、花壇などを計画的に配置し、四季の変化を感じられる景観形成を進めていただきたいと思います。	本方針では、まちづくりの基本方針「(1) 生田緑地の玄関口にふさわしい“緑に包まれた”駅前空間」を位置づけ、主な取組として、地域資源を活かした居心地の良い、人中心の広場空間を創出するとともに、生田緑地への期待感を高める緑道を形成し、駅前の広場空間と合わせてまとまりのある緑を創出することで、多摩川、登戸駅、向ヶ丘遊園駅、生田緑地等がつながる緑や生態系のネットワークの形成につなげ、ネイチャーポジティブ実現に寄与するまちづくりに向けた取組を推進してまいります。	B
16	生田緑地へ向かう緑道は、生田緑地への期待感を高めて人々を生田緑地へといざなう魅力的なゲートウェイとして整備していただくことは勿論実現していただきたいですが、緑道自体が人々を惹き付ける目的地となるようにして欲しい。		B

No	意見（要旨）	市の考え方	対応 区分
17	歩行者の安全性や快適性を確保しながらも、駐車場や送迎スペースへのアクセスなど、自動車利用の実態にも配慮した整備を希望します。	交通機能につきましては、周辺の駅前広場との役割分担を整理し、バス等の公共交通、一般車、荷さばき車両、自転車、それぞれの利用特性等を踏まえた機能の検討を進めてまいります。	B
18	交通環境を整備して欲しい。 （１）ワンコインミニバスの導入を考える。 （２）成田空港や羽田空港へアクセスできるバスの運行を望む。	本方針に基づき、周辺の駅前広場との交通機能の役割分担を整理するとともに、シェアリングモビリティ等の活用など、さまざまな移動手段が使いやすい環境を整えてまいります。	C
19	遊園と駅をつないでいたモノレールの代替交通を設けて欲しい。		C
20	車道ではなく滞留空間と歩道整備を中心とした人流増加による賑わい創出という効果を期待するとともに、その実現に向け、今回の対象範囲においては駐車場台数を可能な限り減らしていく政策が必要だと考えます。	本地区につきましては、駐車場台数の現状を把握した上で、必要台数を確保しつつ、地域資源を活かした居心地の良い、人中心の広場空間の創出に向けた取組を進めてまいります。	C

③ 基本方針（２）大学を活かした“人と人をつなげる”交流拠点 に関する取組について（ 7 件）

No	意見（要旨）	市の考え方	対応 区分
21	産学官連携による交流拠点の形成は、新たな価値創出と地域活性化につながる重要な取組であり、積極的に推進すべきです。 【ほか同趣旨 1 件】	本方針では、まちづくりの基本方針「（２）大学を活かした“人と人をつなげる”交流拠点」を位置づけており、主な取組として、企業、大学、行政が連携し、地域に関わる多様な主体が互いに交流し、学び合いながら本地区内の商業、住宅、広場等の都市機能や生田緑地、文化施設などの地域資源等を活かしたさまざまな取組を通じて、地域課題の改善や新たなまちの価値創出をめざす産学官が連携する仕組みを構築してまいります。	B
22	大学生と地域住民が交流できる取組は、とても良いと思う。地域活動に参加する中で、まちには魅力的な場所や面白い取組が多くあることを知り、地域への愛着も深まった。地方から来た学生として、地域とのつながりを持ちながらまちづくりに関われることに意義を感じている。今後は、大学の研究が地域課題の解決につながるとともに、学生と地域住民が継続的に交流できる拠点や仕組みづくりが進むことを期待したい。 【ほか同趣旨 2 件】		B
23	近くに大学があるのだから、学生との連携できる仕組みをつくるべきだと思う。		B
24	大学生を含む若者や地域住民が交流できる取組は、まちへの愛着醸成という意味でもとてもよいと思う。大学生だけでなく、地元の高校生にもこういう取組に参加できるようにしてほしい。	本方針では、企業、大学、行政が連携し、地域に関わる多様な主体が互いに交流し、地域資源等を活かしたさまざまな取組を通じて、地域課題の改善や新たなまちの価値創出をめざす産学官が連携する仕組みを構築する旨を記載しておりまして、多様な主体の中には、地元の高校生等も含まれております。	B

④ 基本方針（３）多世代が向ヶ丘遊園に“住み続けたい”と思える住環境 に関する取組について（４２ 件）

No	意見（要旨）	市の考え方	対応 区分
25	若者向けのまちづくりと高齢者向けのまちづくりを別々に考えるのではなく、人生のさまざまな段階に応じて住み続けられる環境を整えていくことが重要であると考えます。 【ほか同趣旨 1 件】	本方針に基づき、分譲住宅や賃貸住宅など多様な住まいの導入を誘導し、単身世帯や子育て世帯をはじめとする多世代が、ライフスタイルやライフステージに応じた住まいを選択できる住環境の形成を推進するとともに、高齢者や子育て世帯、学生など多様な世代が気軽に利用し、交流できる空間を形成し、多世代がつながりながら暮らし続けることのできるまちづくりを推進してまいります。	B
26	若い世代のアイデア等で住宅ストックを活用する取組は、地元に愛着が持てる取組として期待できる。	本方針に基づき、若い世代のアイデアや行動力を活かし、周辺に存在する住宅ストック等の活用による住まいの循環を促す取組を通じて、まちへの愛着を醸成し、「このまちに住み続けたい」と思えるまちづくりを推進してまいります。	B
27	歩行者と自転車、車両の動線が整理され、安全面が向上するならとても良いと思います。 【ほか同趣旨 3 件】	本地区につきましては、本方針に基づき、来街者等を駅前の「人中心の広場」から自然豊かな生田緑地へ誘う、緑豊かな緑道の形成を推進し、沿道の店舗と一体となった空間づくりを進め、みどりや文化を感じながら、子どもや高齢者をはじめ、誰もがゆとりを持って楽しめる、安全・安心な歩行空間を創出してまいります。	B
28	「生田緑地の玄関口」として、自然豊かな趣になるのであれば、それは歓迎。歩きやすく、歩くのが楽しい、緑の散歩道になったら良いな、と思う。		B
29	散歩などでも利用したくなるような魅力的な空間整備に期待しています。		B

No	意見（要旨）	市の考え方	対応区分
30	歩行者を優先した動線の確保、自転車や車両との交錯を減らす工夫、分かりやすい案内サインの整備を進めていただきたいと思います。さらに、ベビーカーや車椅子でも移動しやすいユニバーサルデザインの視点を積極的に取り入れることも重要です。	本地区につきましては、本方針に基づき、子どもや高齢者をはじめ、誰もがゆとりを持って楽しめる、安全・安心な歩行空間を創出してまいります。 これらの取組を推進するとともに、御意見を踏まえ、その趣旨がより分かりやすく伝わるよう「(3) 多世代が向ヶ丘遊園に“住み続けたい”と思える住環境、安全で安心なゆとりあるウォークブルな歩行空間の創出」にユニバーサルデザインについて追記しました。	A
31	歩行空間の整備や防災機能の強化により、安全で安心して住み続けられる環境形成につながる点を高く評価します。	本方針に基づき、安全で安心なゆとりあるウォークブルな歩行空間の創出や、地域の防災力の向上につながる機能の導入を進めることにより、多世代が安心して住み続けたいと思える住環境の形成を推進してまいります。	B
32	「地域の防災力の向上や環境配慮につながる機能の導入」と記載があることに賛同	本方針に基づき、緑地帯などのグリーンインフラを活用し、温熱環境の改善や雨水流出の抑制を図るなど、気候変動に対応した防災機能の強化を推進してまいります。 また、再生可能エネルギーの活用や省エネルギー建築物の導入を誘導し、温室効果ガスの排出削減に向けた取組を推進してまいります。	B

No	意見（要旨）	市の考え方	対応 区分
33	日常的な買い物や生活サービスの面では、さらなる充実を期待する声もあります。地域住民の日常ニーズを踏まえた店舗構成や、商店街との連携による回遊性向上を意識していただきたいと思います。また、医療・福祉サービスとの連携も進めることで、多世代が安心して暮らせる環境づくりにつながると考えます。	本地区につきましては、本方針に基づき、地域住民のニーズを把握しながら、商業・業務機能や生活利便サービス機能など、駅前にふさわしい多様な都市機能の集積を誘導することで、多世代が安心して暮らし続けられる住環境の形成を推進してまいります。	B
34	商業機能やにぎわいの面ではまだ発展の余地があると感じています。地域内で買い物や用事を済ませられるような商業機能の充実を検討していただきたいと思います。 【ほか同趣旨 3 件】		B
35	南口側には家族で買い周りしやすい商業施設ができると嬉しいです。 【ほか同趣旨 2 件】		B
36	商業施設の高層化をして、若者や子育て世代の必需品を扱う店が欲しい。	本地区につきましては、本方針に基づき、地域住民のニーズを把握しながら、商業・業務機能や生活利便サービス機能など、駅前にふさわしい多様な都市機能の集積を誘導することで、多世代が安心して暮らし続けられる住環境の形成を推進してまいります。いただいた御意見は今後の取組の参考とさせていただきます。	C
37	衣料品や生活雑貨等の物販店舗について、官民一体となった商業誘致をお願いいたしたく存じます。		C
38	これから先 10 年くらいは必要な店（ホームセンター、手芸店、園芸用品、下着売場等々）の誘致に協力してもらいたい。		C
39	景観向上は大切ですが、見た目だけでなく日常の買い物や交通など生活利便性も十分に確保してほしいと感じています。		C

No	意見（要旨）	市の考え方	対応 区分
40	現在の南口の魅力は、低層で古い建物と多様な路面店が並んでいる点にあります。日常的に前を通行することで親しみがわき、帰りに気軽に立ち寄れるような「店構えの多様性」が、街の賑わいを作ると考えています。	本方針に基づき、生田緑地へ誘う緑道の形成や、沿道の店舗と一体となった空間づくりを進め、歩きながら気軽に立ち寄れる魅力あるまちづくりを推進してまいります。	C
41	駅前広場では歩車分離の措置が確実とは言えず、歩行者と自転車が錯綜する危険な状況となっております。歩行者の安全を確保するための取組みをお願いします。	本方針に基づき、駅前の「人中心の広場」から生田緑地へ誘う、緑豊かな緑道の形成や、沿道の店舗と一体となった空間づくりを進め、子どもや高齢者をはじめ、誰もが安全・安心に利用できる歩行空間の創出を推進してまいります。	C
42	「ウォーカブルなまちづくり」→歩きたくなる駅前をつくって欲しい。 （１）駅前広場の空間は自転車と車の通行不可空間とする。 （２）駅から生田緑地までの緑道を「バラの道」にする。	本地区につきましては、本方針に基づき、駅前広場に「人中心」の広場を創出するとともに、自然豊かな生田緑地へ誘う、緑豊かな緑道を形成し、みどりや文化を感じながら、子どもや高齢者をはじめ、誰もがゆとりを持って楽しめる、安全・安心な歩行空間を創出してまいります。	D
43	駅前から緑地までドーンと大きな道を作り、見晴らしの良い通りにし、充実した街路樹と昔の風景写真や、ドラえもん、岡本太郎さん達の姿絵を道々に配置して欲しい。		D
44	自然・文化・観光軸では、「藤子・F・不二雄ミュージアム」や「岡本太郎美術館」等の世界観を感じられる空間づくりをしていただくとともに、新たなミュージアム監修によるパブリック・アートを一定間隔で設置して頂くことを実現して頂きたく、お願い致します。 【ほか同趣旨 1 件】		D

No	意見（要旨）	市の考え方	対応 区分
45	全体として、駅を利用する市民、高齢者や障害のある人、小さな子どもも安全に歩ける道が一番大事であると思う。バリアフリーについての言及が見られないことも懸念事項である。また、昨今、自転車の扱いも大事。さまざまなセクターに配慮が必要であると思うが、道の上での弱者である歩行者（障がい者を含む）が、歩きやすく、安全な駅前になることを第一義として欲しい。	本方針に基づき、生田緑地へ誘う、緑豊かな緑道の形成等を進め、子ども、高齢者及び障害のある人をはじめ、誰もが安全・安心に利用できる歩行空間の創出を推進し、バリアフリーに配慮した駅前空間の形成に取り組んでまいります。	B
46	生田緑地に来られる方を迎え入れる景観作り、待ち合わせができる、歩き疲れた方が休憩する、雨・熱射が避けられる、軽食程度が取れるスペース、公衆トイレの設置等を望みます。	本地区につきましては、本方針に基づき、来街者が快適に過ごせるよう、滞在や休憩等にも配慮した、緑豊かで居心地の良い広場空間や、生田緑地へ誘う、緑豊かな緑道の形成を推進してまいります。	C
47	現時点でも向ヶ丘遊園駅前の駐輪場は全く数が足りていない、遊園、登戸周辺ではタワーマンションが建設され、子育て世帯が増えているため、保育園の建設だけでなく、幼児座席つき電動自転車を置ける駐輪場を十分な数整備していただきたい。 【ほか同趣旨1件】	市営駐輪場につきましては、子ども乗せ用など大型化した自転車の増加や利用者の高齢化等を踏まえ、自転車に合わせたスペースの配置や操作の負担軽減につながる設備の導入など、利用者のニーズに応じた駐輪場の利便性向上に努めてまいります。 また、駅周辺の利用状況等を踏まえながら、新たな駐輪場整備も視野に利用環境の改善を進めてまいります。	C

No	意見（要旨）	市の考え方	対応 区分
48	日本の市街地の緑と言えば街路樹ですが、狭い植樹帯に強剪定された樹木や街路樹としては小さすぎる樹種が植えられていることが多く、グリーンインフラとしての機能が発揮できていないもの、寧ろ都市の財産としては真逆の意味になっているものも多いと感じています。そうならないためにも成功事例や専門家の方の意見を十分に取り込み熟考していただきたいです。	本方針に基づき、緑地帯などのグリーンインフラの活用により、温熱環境の改善、雨水流出を抑制するなど、気候変動に対応した防災機能の強化を図ってまいります。	C
49	過度な舗装や「申し訳程度の街路樹」でお茶を濁すのではなく、熱環境に配慮した空間作りをお願いします。		C
50	気候変動が進み、5月から猛暑日が続く、熱中症などが懸念されている昨今、日陰を作ることが大きな課題で急務であると思う。せつかく、生田緑地をキーワードにするのであれば、それに相応しい木陰ができる街路樹を植えて欲しい。 【ほか同趣旨 1 件】		C

No	意見（要旨）	市の考え方	対応 区分
51	一時避難場所となる広場・オープンスペースの整備方針と整合させ、停電等の非常時においても、情報提供、携帯端末充電、冷暖房、給湯等の最低限の機能を維持する電力・熱の確保に資するため、都市ガスを活用したエネルギーシステムを提案します。	本方針に基づき、地域の安全性を高めるため、一時避難場所となる広場やオープンスペースを創出することで、災害に強く、安全・安心に暮らせる日常の利便性と非常時の防災機能を両立させた環境の形成を図ってまいります。 また、再生可能エネルギーの活用や、省エネルギー建築物の導入を誘導し、温室効果ガスの排出削減に向けた取組を推進してまいります。いただいた御意見は今後の取組の参考とさせていただきます。	C
52	コージェネレーション等の分散型エネルギーの導入検討。平時の省エネルギー化と温室効果ガス排出削減に資する取組を推進することを提案します。		C
53	エネルギーの面的利用（エリア内融通・ネットワーク化）駅周辺の複合開発等を想定し、建物単体最適に留まらない、エリア全体でのエネルギー需給の最適化（電力・熱の融通、エネルギーネットワーク等）を通じて、平時の効率向上と非常時の事業継続性向上の両立を図ることを提案します。		C
54	停電対応型 CGS を導入することにより、電源の多重化を図る。		C

⑤ 方針図等に関する取組について（ 22 件）

No	意見（要旨）	市の考え方	対応区分
55	向ヶ丘遊園駅「北口」と「南口」のアクセスが良くないです。「北口」と「南口」のアクセスを改善してほしい。 【ほか同趣旨3件】	これまで、向ヶ丘遊園駅南北の歩行者ネットワークにつきましては、南北地下通路の整備や、登戸1号踏切の代替歩行者動線となる、こ線橋の整備に取り組んできたところでございます。	C
56	南口と北口が西側地下通路及び東側歩道橋により接続される構造となっておりますが、駅前広場から距離や高低差があり、ビジョンに掲げる回遊性の向上が実現したとは言えず、南北の物理的な隔たりを感じております。関係者とも協働した一層の取り組みの加速をお願いいたしたく存じます。	本方針につきましても、駅南北それぞれの役割分担や機能連携を図り、地域の魅力向上を目指すこととしておりますので、いただいた御意見を参考としながら、まちづくりの進捗にあわせ、地域の魅力向上に向けた取組を進めてまいります。	C
57	向ヶ丘遊園は登戸と一体だと思しますので、向ヶ丘遊園駅の北口と南口及び登戸駅がそれぞれ適切に役割分担をしながらエリア全体の価値が向上するようお願いします。	本地区につきましては、向ヶ丘遊園駅の北口と南口及び登戸駅がそれぞれ適切に役割分担をしながらエリア全体の価値が向上するような取組を進めてまいります。	C
58	賑わいと交流の機能として駅前に広場が計画されているが、スペース的に小さく見えて、イベントなどを行うには課題がありそう。また「交流機能」が「産学官連携」とされているが、何が計画されているのか、まったく見えてこない。	本方針では、地域住民や来街者など多様な人々が交流し、賑わいを創出できるよう、イベント等にも活用できる広場空間の創出を目指しております。 また、交流機能につきましては、企業、大学、行政をはじめとする多様な主体が連携し、本地区の都市機能や生田緑地、文化施設等の地域資源を活かした取組を通じて、交流や学び合いの機会を創出し、地域課題の解決や新たなまちの価値創出を目指してまいります。	D

No	意見（要旨）	市の考え方	対応 区分
59	「緑のネットワークの形成」「ゾーニング」について、構想自体は緑をテーマとしたまちづくりで良いと思う。ただ、新たな緑の創出を、登戸駅前から多摩川も含めて検討している図が出てくるが、拠点が点でしかない場合、また、小規模であると、生物の繋がりを作るのは難しい。掛け声だけにしないためには、駅前だけではなく、途中の道にも植樹するなど、もう一步、踏み込んだ「繋げていく」工夫が必要ではないかと思う。	本方針では、まちづくりの基本方針「(1) 生田緑地の玄関口にふさわしい“緑に包まれた”駅前空間」を位置づけ、主な取組として、地域資源を活かした居心地の良い、人中心の広場空間の創出をするとともに、生田緑地への期待感を高める緑道を形成し、駅前の広場空間と合わせてまとまりのある緑を創出することで、多摩川、登戸駅、向ヶ丘遊園駅、生田緑地等がつながる緑や生態系のネットワークの形成につなげ、ネイチャーポジティブ実現に寄与するまちづくりに向けた取組を推進してまいります。	D
60	まちのビジョン図で、「賑わい・交流軸」とされているのは、南口側ではなく、北口の2号線を想定しているようだが、あの新しい道は、あまり市民に活用されていない。せつかくの広い道でもあり、この計画の中に含まれるのであれば、南側の「緑」のコンセプトを北側にも広げて、むしろ、ここを「緑のネットワーク」のある種の副線とするのも一案であるかもしれない。	本方針は、向ヶ丘遊園駅南側地区を対象区域としております。なお、「登戸・向ヶ丘遊園駅周辺まちづくりビジョン」において、「賑わい交流軸」である都市計画道路登戸2号線は、ベンチの設置等、憩い空間創出に向けた取組や賑わい創出と交流促進に向けた地域主体によるイベント等を実施しております。 また、当該道路を含め、多摩川、登戸駅、向ヶ丘遊園駅、生田緑地等がつながる緑や生態系のネットワークの形成につなげ、ネイチャーポジティブ実現に寄与するまちづくりに向けた取組を推進してまいります。	E

No	意見（要旨）	市の考え方	対応 区分
61	駅前に人中心の広場ができることは大歓迎だが、駅前にあったバスやタクシー乗り場が駅から少し離れるので、駅まで子供や高齢者でも安全な歩道の整備と雨でも濡れないように歩道に屋根などをつくってほしい。 【ほか同趣旨 3 件】	本方針は、向ヶ丘遊園駅南側のまちづくりの方向性を示すものであり、今後、具体的な計画を進める段階になった場合は、駅からバスやタクシー乗り場までの歩行者動線につきましては、子どもや高齢者をはじめ、誰もが安全に歩行できる空間の整備等、歩行者に十分配慮した計画としてまいります。	C
62	バス停が駅から遠くなると、妊婦やお年寄りの歩く距離が増えるため、北口のバスロータリーに乗り場を集約させるなど、対策をしていただきたい。 【ほか同趣旨 1 件】	交通機能につきましては、周辺の駅前広場との役割分担を整理し、バス等の公共交通、一般車、荷さばき車両、自転車など、それぞれの利用特性を踏まえた交通機能の検討を進めてまいります。	C
63	現在の駅前にあるバス乗り場などが、駅から離れた道の先に設定されているようだが、ここでバスやタクシーが車を回すとなると、相当な規模のスペースが必要となり、かなり大規模な工事が予想される。予算も含めて慎重な検討が必要で、そのためにかかる時間を考えると、果たして現実的なかどうか、いずれにせよ、簡単に進む気がしない。	交通機能につきましては、本方針に基づき、周辺交通の円滑化や公共交通の定時性の向上等につながる効率的な交通環境を形成してまいります。 今後のまちづくりの検討の進捗状況にあわせて、いただいた御意見も参考に検討を進めてまいります。	C
64	駅前から生田緑地へ向かう途中に、大きな交通拠点が出現することで、散歩道を遮り、安全にも懸念が生じるのではないだろうか。	生田緑地へ誘う緑道につきましては、安全で安心なゆとりあるウォークアブルな歩行空間の創出してまいります。 今後のまちづくりの検討の進捗状況にあわせて、いただいた御意見も参考に検討を進めてまいります。	C

No	意見（要旨）	市の考え方	対応 区分
65	適度にきれいで適度に古いものが混在する街を望みます。若い女性が安心して歩け、行き帰りそのものが楽しいと思える環境。そして、魅力ある個人商店ががんばれる土壌を残すような街づくりを希望します。	本方針に基づき、沿道の店舗と一体となった空間づくりを進め、みどりや文化を感じながら、子どもや高齢者をはじめ、誰もがゆとりを持って楽しめる、安全・安心な歩行空間を創出してまいります。	C
66	向ヶ丘遊園駅南口の交番の裏手にある、長年荒れている放置自転車エリアを整備してほしいです。夏場は植物の蔓が道路まで出ていて、学生も多い細道のため通行しにくいです。	今後のまちづくりの検討の進捗状況にあわせて、いただいた御意見も参考にしながら、快適で良好な駅前環境の形成に努めてまいります。	C
67	南口のゴミ問題への対策に期待します。	今後のまちづくりの検討の進捗状況にあわせて、いただいた御意見も参考にしながら、快適で良好な駅前環境の形成に努めてまいります。	C
68	事業実施の際は、市主体の説明会を開催して欲しい。	今後のまちづくりの進捗状況にあわせて、説明会等により、適切に情報提供に努めてまいります。	C
69	工事期間の混雑の影響が心配です。	工事期間中の混雑等の周辺環境への影響につきましては、今後、事業の具体化に合わせて、関係法令等に基づく手続きを行いながら、関係者と連携し、周辺環境への配慮に努めてまいります。	C

⑥ その他（ 7 件）

No	意見（要旨）	市の考え方	対応区分
70	生田緑地について ①駐車場の確保とカフェの設置 ②犬と散歩できるゾーンを設置 ③清潔で小さなビジネスホテルを設置	生田緑地につきましては、「生田緑地ビジョン」に基づく基本理念「豊かな自然・文化・人・まちが共に息づき緑がつながる持続可能な生田緑地の実現」に向けた取組を進めているところです。 生田緑地については、いただいた御意見を参考にしながら、「生田緑地ビジョン」に基づく取組を推進してまいります。	E
71	生田緑地、藤子・F・不二雄ミュージアム、向ヶ丘遊園跡地開発、市民ミュージアム移転が成功し賑わいが出ればモノレールの復活もありかと夢見ています。	地域資源を活かした魅力向上と賑わいの創出を目指し、自然環境や文化施設などの地域資源を活かしながら、様々な取組を連携して進め、魅力あるまちづくりに取り組んでまいります。	E
72	二ヶ領用水の桜や自然を維持していただけたらと思います。	「二ヶ領用水基本方針」や「川崎市河川維持管理計画」に基づき、桜をはじめとする豊かな河川環境の保全に努めるとともに、生物の良好な生育環境の確保や、人と河川とのふれあいの場の形成に配慮してまいります。 また、川の特性や地域の風土を踏まえ、市民団体等との連携を図りながら、地域社会と一体となった維持管理を進めてまいります。	E
73	現在の駅舎が持つ特徴や雰囲気可能な限り活かし、地域の歴史や記憶を感じられる景観を継承していただきたいと思います。	いただいた御意見につきましては、小田急電鉄株式会社に伝えるとともに、引き続き、同社と連携し、本地区のまちづくりを進めてまいります。	E

No	意見（要旨）	市の考え方	対応 区分
74	生田緑地の正門そばにトイレの案内標示があります。そしてその下に小さく「喫煙所」と書かれています。なぜ、わかりにくく表示しているのか知りたいです。もっと言うと、なぜ喫煙場所があるのか。閉所して欲しいです。	令和7年7月から、市内の公園を原則禁煙としておりますが、生田緑地など、常駐の管理者がいる一部の公園においては喫煙スペースを設置し、そのスペース内での喫煙を可能としております。 また、生田緑地内に設置した喫煙スペースについては、受動喫煙防止に配慮し、積極的に御案内するのではなく、「お声がけいただければ御案内する」スタンスにて運用を行っていることから、小さな掲示にとどめております。 今後、いただいた御意見などを参考に、引き続き適切な管理運営に努めてまいります。	E
75	五ヶ村堀緑地が公園のようになったことで、自転車通行するには府中街道を通らなければならず、とても危険であるため、自転車が通れるスペースを確保して欲しい。	自転車は車両であり、車道の左側通行が原則であることを踏まえ、川崎市では、「川崎市自転車活用推進計画」に基づき、自転車利用の多い駅周辺の道路や主要な幹線道路を対象として、交通量や車道幅員等を考慮し、警察との協議のうえ、自転車通行環境整備を行っております。 府中街道の稲生橋交差点から本村橋交差点までの区間については、本計画に基づき、令和2(2020)年度に矢羽根等を設置しております。	E
76	生田長者穴横穴墓群の入り口コースがもう少し分かりやすい看板なりの設置お願い致します。	地域資源を活かした魅力向上と賑わいの創出を目指し、いただいた御意見などを参考に、魅力あるまちづくりに取り組んでまいります。	E

5 案からの変更点

・パブリックコメント等による市民意見を踏まえた変更

※下線は変更箇所

変更の概要	変更内容【変更後】	【変更前】
ユニバーサルデザインに関する御意見を受け、記載を追記	(本編 p 22) (概要版 p 13) (3) 多世代が向ヶ丘遊園に“住み続けたい”と思える住環境 ■安全で安心なゆとりあるウォーカブルな歩行空間の創出 沿道の店舗と一体となった空間づくりを進め、みどりや文化を感じながら、子どもや高齢者をはじめ、誰もがゆとりを持って楽しめる、<u>ユニバーサルデザインに配慮した、安全・安心な歩行空間を創出します。</u>	(本編 p 22) (概要版 p 13) (3) 多世代が向ヶ丘遊園に“住み続けたい”と思える住環境 ■安全で安心なゆとりあるウォーカブルな歩行空間の創出 沿道の店舗と一体となった空間づくりを進め、みどりや文化を感じながら、子どもや高齢者をはじめ、誰もがゆとりを持って楽しめる、安全・安心な歩行空間を創出します。

その他、用語・用字の修正など、所要の整備を行っております。

向ヶ丘遊園駅南側まちづくり方針【概要版】

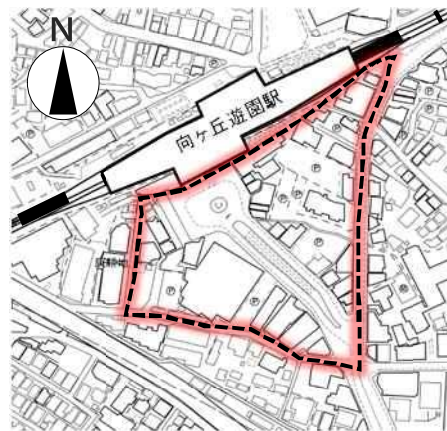
- | | |
|-----------------|-----------------------------------|
| 1 はじめに | 3 まちづくりの基本方針 |
| （１）背景 | （１）生田緑地の玄関口にふさわしい
“緑に包まれた”駅前空間 |
| （２）まちづくり方針策定の目的 | （２）大学を活かした“人と人をつなげる”
交流拠点 |
| （３）まちづくり方針の位置づけ | （３）多世代が向ヶ丘遊園に
“住み続けたい”と思える住環境 |
| 2 向ヶ丘遊園駅南側の現況 | 4 方針図（駅前空間ゾーニングイメージ） |
| （１）人口等 | （１）まちの概念図（ビジョン） |
| （２）地域資源 | （２）まちの構造図 |
| （３）自然環境 | （３）まちの構造図（本地区内） |
| （４）交通環境 | （４）方針図（駅前空間ゾーニングイメージ） |
| （５）土地利用等 | 5 今後のスケジュール |
| | （１）区域設定とまちづくりの進め方 |
| | （２）スケジュール |

川崎市

令和8（2026）年7月

(1) 背景

- 向ヶ丘遊園駅周辺は、昭和初期頃から向ヶ丘遊園地や果物狩りなどの娯楽、生田緑地の自然に親しむ憩いを通じて、多くの人々を受け入れ発展してきました。
- 昭和63(1988)年には、登戸駅周辺で急激な人口増加に伴う生活環境の悪化を改善するため、土地区画整理事業に着手しました。
- 区画整理事業が進捗し、事業終盤を迎えた令和3(2021)年7月には、まちづくりの将来像を共有し、まちの価値向上につなげる指針として「登戸・向ヶ丘遊園駅周辺地区まちづくりビジョン（以下「ビジョン」という。）」を策定しました。
- 向ヶ丘遊園駅南側地区（以下「本地区」という。）は、本市の地域生活拠点である登戸・向ヶ丘遊園駅周辺地区に位置しています。また、「川崎都市計画都市再開発の方針」（令和7(2025)年3月改定）において「2号再開発促進地区」に指定、「川崎市立地適正化計画」（令和7(2025)年3月策定）では「都市機能誘導区域」に設定しています。
- 国においては、居心地が良く歩きたくなる、まちなかの創出をめざす「ウォーカブルなまちづくり」や、駅や駅前広場、周辺市街地を一体的に再編する「えきまち空間」の形成を進めています。



本地区の範囲
川崎市発行地形図（令和6(2024)年度）

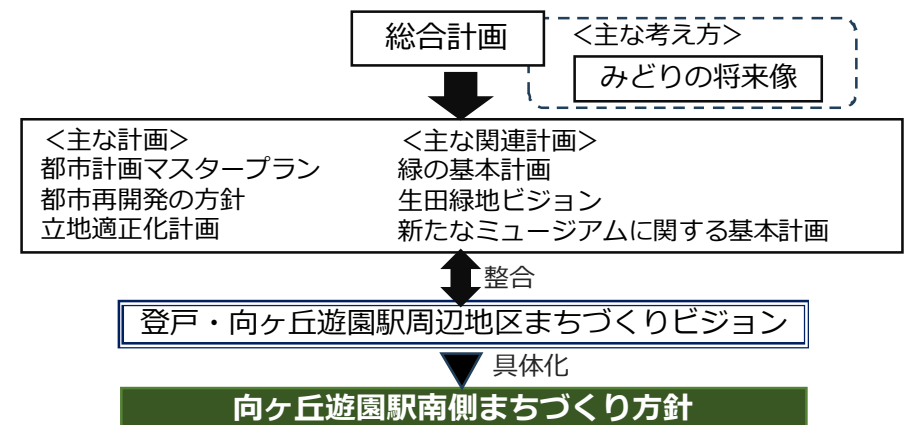
- 本地区は、民間の土地利用転換の動きが見られることから、国の動向等を踏まえ、ビジョンの実現に向けて、地域資源などまちのポテンシャルを活かした魅力あるまちづくりを推進していく必要があります。

(2) まちづくり方針策定の目的

- 本地区における民間の土地利用転換の機会を捉え、地域資源を活かした賑わいの創出や交通環境の課題改善に向けて、ビジョンの将来像等を具体化した基本的な方向性を示し、生田緑地の玄関口にふさわしい“緑に包まれた”駅前空間の創出等を官民連携により推進していくことを目的として向ヶ丘遊園駅南側まちづくり方針（以下「本方針」という。）を策定します。

(3) まちづくり方針の位置づけ

- 本方針は、「総合計画」を上位計画として、都市計画の基本的な方針である「都市計画マスタープラン」や関連する他分野の計画との整合を図ったビジョンを具体化するものであり、今後、本方針に基づき、本地区のまちづくりの取組を推進します。



2 向ヶ丘遊園駅南側の現況

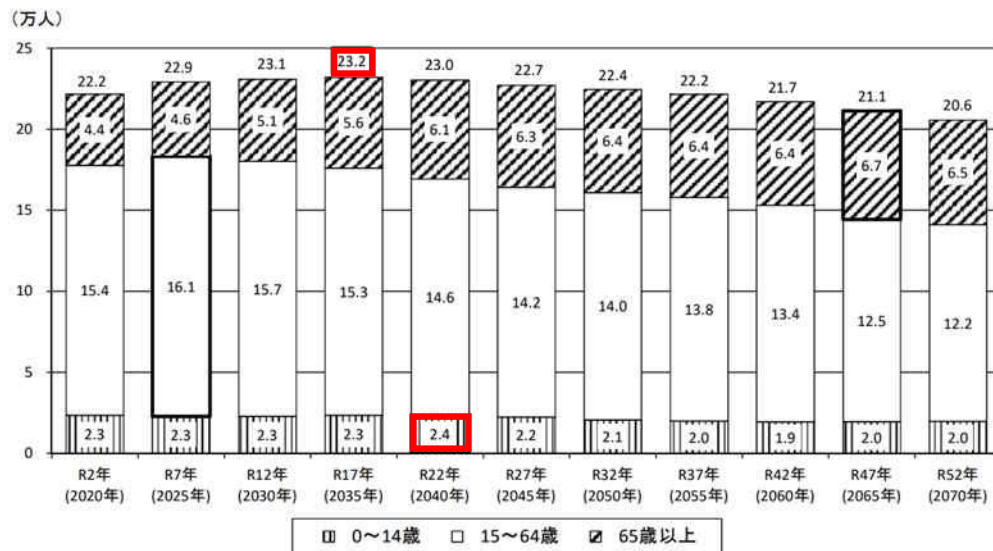
(1) 人口等

●多摩区の将来人口推計

- 多摩区の人口は令和7(2025)年に約22万9千人となり、令和17(2035)年に約23万2千人でピークを迎える見込みです。
- また、年少人口は令和22(2040)年に約2万4千人で最大となると予測されています。その後は、人口減少へと転じることが予想されています。

多摩区将来人口推計

総人口のピーク	： 令和17（2035）年頃	約 23.2万人
老年人口のピーク	： 令和47（2065）年頃	約 6.7万人
生産年齢人口のピーク	： 令和 7（2025）年頃	約 16.1万人
年少人口のピーク	： 令和22（2040）年頃	約 2.4万人

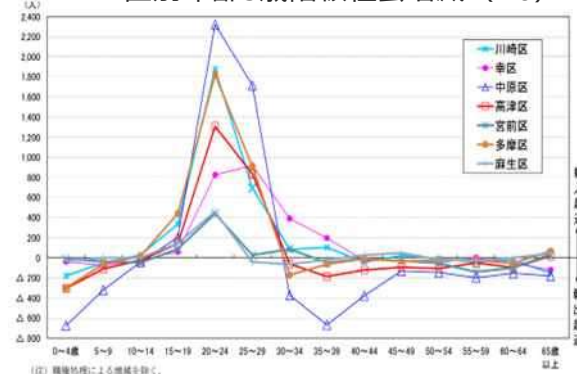


出典：川崎市総合計画の改定に向けた将来人口推計（令和7年5月公表）

●多摩区の人口動態

- 多摩区の人口動態は、10代後半から20代は転入超過となり、30代は転出超過傾向が強くなっています。

区別年齢5歳階級社会増減（R6）



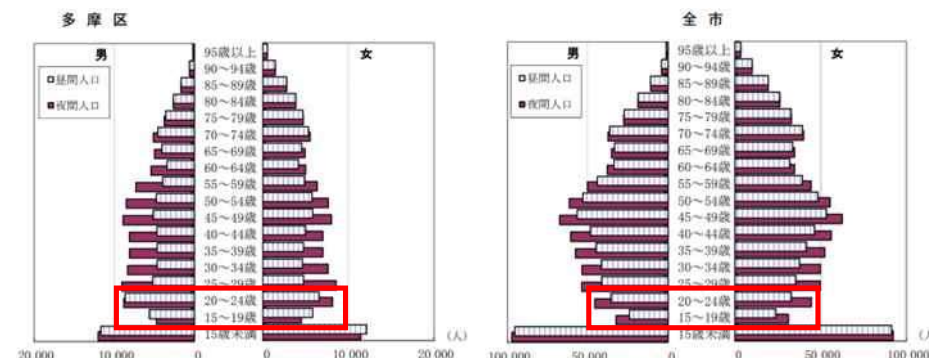
出典：令和6年川崎市の人口動態

●多摩区の昼夜間人口比率

- 多摩区は、全市と比較すると若者（15～24歳）の昼夜間人口比率※は高い傾向にあります。

※昼夜間人口比率＝夜間人口100人当たり、昼間にその地域にいる人口（昼間人口）が何人いるかを示す割合。比率が100を超えると昼間人口が多い。

多摩区・全市 年齢5階級昼夜間人口ピラミッド



出典：川崎市の昼間人口（令和2年国勢調査）

2 向ヶ丘遊園駅南側の現況

(2) 地域資源

●周辺の自然・文化・教育施設についての配置等

- 本地区周辺は、生田緑地をはじめとする豊かな自然環境や多彩な文化施設があるなど、貴重な地域資源に恵まれています。
- 近接する専修大学や明治大学及び日本女子大学では、本市と連携し、地域をテーマとした研究や学生主体の多様な取組が行われています。
- 一方で、向ヶ丘遊園駅南側駅前は、生田緑地の玄関口でありながら、居心地良く滞在できる場所が乏しく、また、緑視率が低く、豊かな自然を感じられないなど、地域資源の魅力を十分に活かしきれていない状況です。

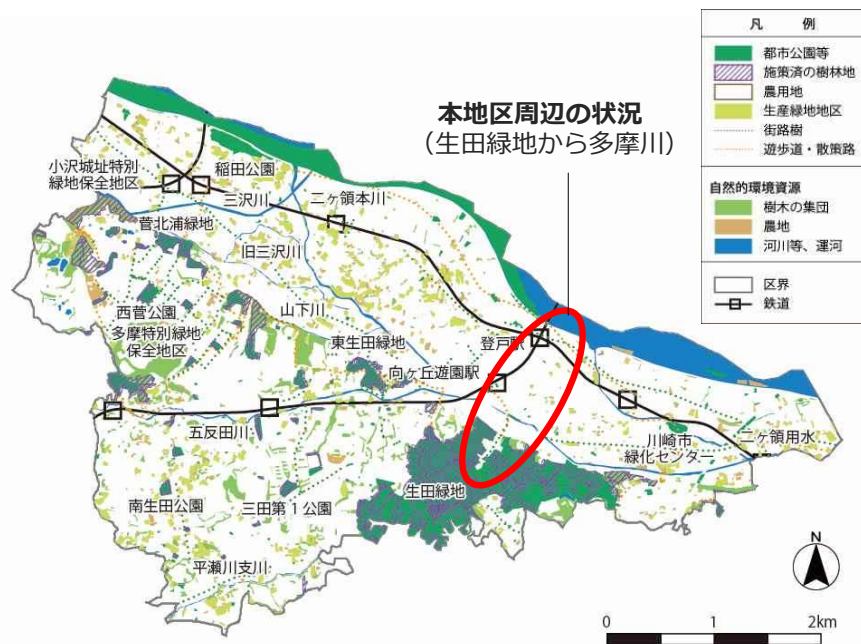


2 向ヶ丘遊園駅南側の現況

(3) 自然環境

●緑のネットワーク

- 本地区周辺は、多摩川や二ヶ領用水等、水が豊かな地域であり、首都圏を代表する緑豊かな生田緑地などの地域資源があります。一方で、駅周辺の市街地では、まとまった緑は少ないことなどから、周辺の地域資源である自然環境とのつながりに配慮した緑のネットワークを創出していく必要があります。



多摩区の緑の現況 (川崎市「緑の基本計画」より)

●生態系のネットワーク

- 生田緑地や多摩川は、多種・多様な生物が生息していることが確認されています。生田緑地や多摩川の貴重な自然の保全を進めるためには、まちなかにおいても、まとまった緑の創出や、生き物に配慮した取組を進めることで、生き物が移動しやすくなる生態系ネットワークを形成していく必要があります。



生物多様性かわさき戦略 将来ビジョン (一部拡大)

2 向ヶ丘遊園駅南側の現況

向ヶ丘遊園駅南側まちづくり方針【概要版】

(4) 交通環境

●本地区周辺の変遷

- 本地区は、向ヶ丘遊園地の玄関口として駅前広場の基盤整備を進め、駅前の機能を検討・更新してきました。
- 登戸駅前広場の概成や長年にわたり未整備であった都市計画道路登戸駅線の開通により、両駅の駅前広場のアクセスが改善されました。

昭和40(1965)年頃



川崎市発行地形図（昭和40(1965)年度）

- ・昭和 2(1927)年 小田急小田原線開通と向ヶ丘遊園地の同時開園
- ・昭和25(1950)年 豆電車の運行により向ヶ丘遊園地へアクセスが強化
- ・昭和32(1957)年 向ヶ丘遊園駅に駅前広場が完成し交通結節機能が強化
- ・昭和40(1965)年 豆電車が廃止され、その後モノレールが開通



小田急小田原線の開通時の駅舎
写真提供：稲田郷土史会

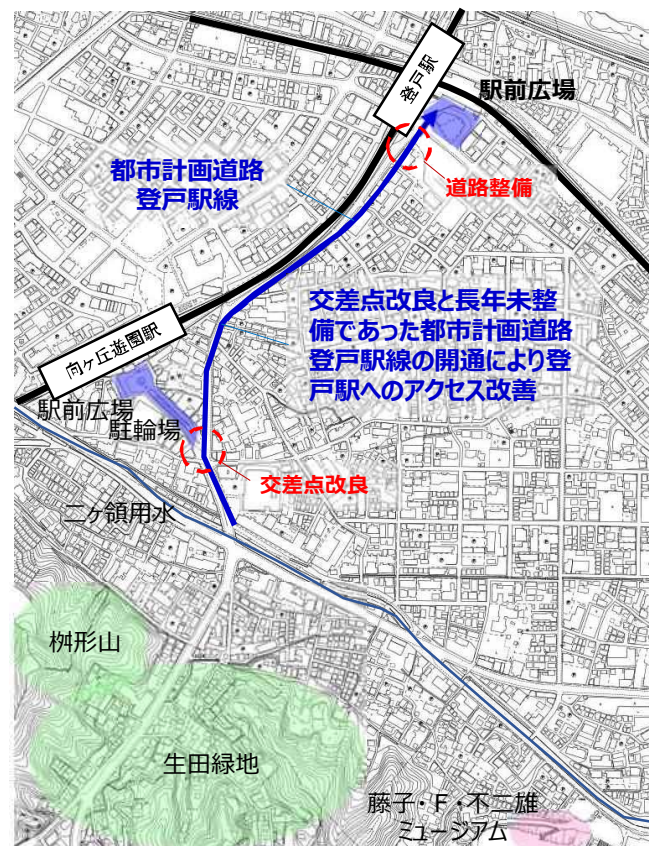


モノレール乗場の様子（駅側）
写真アルバム「川崎市の100年」



モノレール乗場の様子（遊園地側）
写真アルバム「川崎市の100年」

現在



川崎市発行地形図（令和 6(2024)年度）

- ・平成11(1999)年 モノレールが廃止され、その跡地は駐輪場として利用
- ・平成14(2002)年 向ヶ丘遊園地の閉園
- ・平成16(2004)年 交差点改良による登戸駅方面への一部アクセス改善
- ・令和 8(2026)年 登戸駅前広場の完成（予定）



モノレール跡地にある駐輪場
（現在の様子）



都市計画道路登戸駅線
（現在の様子）



登戸駅前広場
令和 8(2026)年 6月完成
（予定）

2 向ヶ丘遊園駅南側の現況

(4) 交通環境

●基盤状況

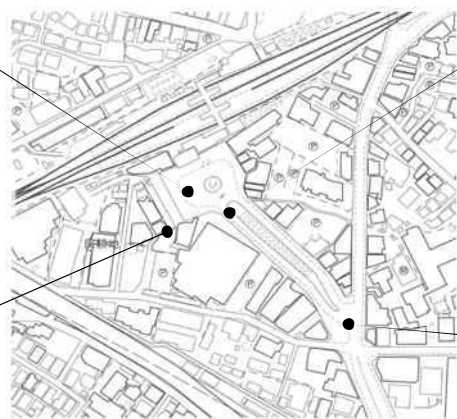
- 駅前広場は一般車の乗降場や荷さばきスペースがなく、一般車・荷さばき車両とバスが錯綜しています。
- 駅前主要部に自転車駐輪場が位置していることにより、駅前の景観形成や歩行者動線が分断されています。
- 幹線道路から駅前広場への引き込み道路が長いため、駅までのアクセスが悪く、引き込み道路内は、路上駐車や自転車・歩行者との交錯等により、円滑なバスの運行に影響しています。
- 狭い通路や水路敷が歩行者の動線となっており、自転車との交錯があるなど、安全な歩行者動線の確保が必要となっています。
- 幹線道路との変則的な交差点形状が、交通の円滑性に影響しています。



一般車の停車が多い駅前広場



狭い歩行空間



基盤状況の様子

川崎市発行地形図（令和6（2024）年度）



交通の円滑性を阻害する路上駐車車両

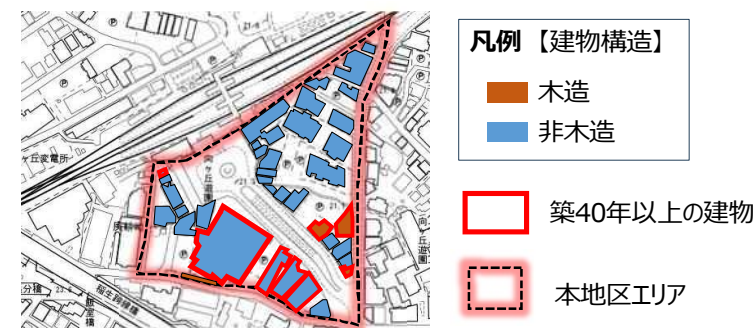


変則的な交差点形状

(5) 土地利用等

●建物状況

- 本地区の南側は、築年数40年を超える非木造の建物が多くあるとともに、地域生活拠点の駅前にふさわしい土地利用の高度化が十分に進んでいません。



建物構造階数別現況図（令和2年都市計画基礎調査より作成）

●多摩区の住宅状況

- 多摩区は、借家に住む25歳未満の若い世帯の割合が他の区と比べて高い傾向があります。

家計を主に支える者の年齢別世帯割合 借家



出典：令和5年住宅・土地統計調査

めざす駅前空間

ひととりのえきまち

自然豊かな緑に包まれ、人と人がつながり、このまちに住み続けたいくなる

(1)

生田緑地の玄関口にふさわしい“緑に包まれた”駅前空間

- 地域資源を活かした居心地の良い、人中心の広場空間の創出
- 生田緑地や多摩川など周辺の自然資源をつなぐ緑のネットワークの形成
- 周辺の駅前広場と機能連携を図った交通環境の形成

(2)

大学を活かした“人と人をつなげる”交流拠点

- 新たなまちの価値創出に向けた産学官連携の仕組みづくり
- 地域の魅力向上と愛着を育む交流拠点の創出

(3)

多世代が向ヶ丘遊園に“住み続けたい”と思える住環境

- 生活者のニーズに合わせた暮らし方を受け入れる多様な住宅機能の導入
- 安全で安心なゆとりあるウォークブルな歩行空間の創出
- 地域の防災力の向上や環境配慮につながる機能の導入

3 まちづくりの基本方針

(1) 生田緑地の玄関口にふさわしい“緑に包まれた”駅前空間

■地域資源を活かした居心地の良い、人中心の広場空間の創出

- 駅前を緑に包まれた「人中心の広場」として、若者・子育て世帯から高齢者までの多世代が、生田緑地の自然を身近に感じながら、緑豊かで居心地の良い広場空間を官民連携で形成します。
- 広場空間では、地域資源である生田緑地や文化施設、地域の商店街等と連携して取り組む多様な活動を通じて、まちの魅力の発信や、賑わいを創出します。



人中心の広場空間イメージ
(流山おおたかの森駅)



地域イベントで活用される空間
(みなまきみんなのひろば)
(出典：みなまきうぽHP)



民家園通り商店会夏まつり
(出典：民家園通り商店会HP)

■生田緑地や多摩川など周辺の自然資源をつなぐ緑のネットワークの形成

- 生田緑地への期待感を高める緑道を形成し、駅前の広場空間と合わせてまとまりのある緑を創出することで、多摩川、登戸駅、向ヶ丘遊園駅、生田緑地等がつながる緑のネットワークの形成につながります。
- 多摩川から生田緑地へとつながる生態系ネットワークの形成につなげ、ネイチャー ポジティブ※実現に寄与するまちづくりに向けた取組を推進します。



緑の豊かな緑道イメージ
(立川グリーンスプリングス)



緑のネットワーク形成イメージ

※ ネイチャー ポジティブ：生物多様性の損失を止め、2030年までに回復軌道に乗せるという考え方

3 まちづくりの基本方針

(1) 生田緑地の玄関口にふさわしい“緑に包まれた”駅前空間

■周辺の駅前広場と機能連携を図った交通環境の形成

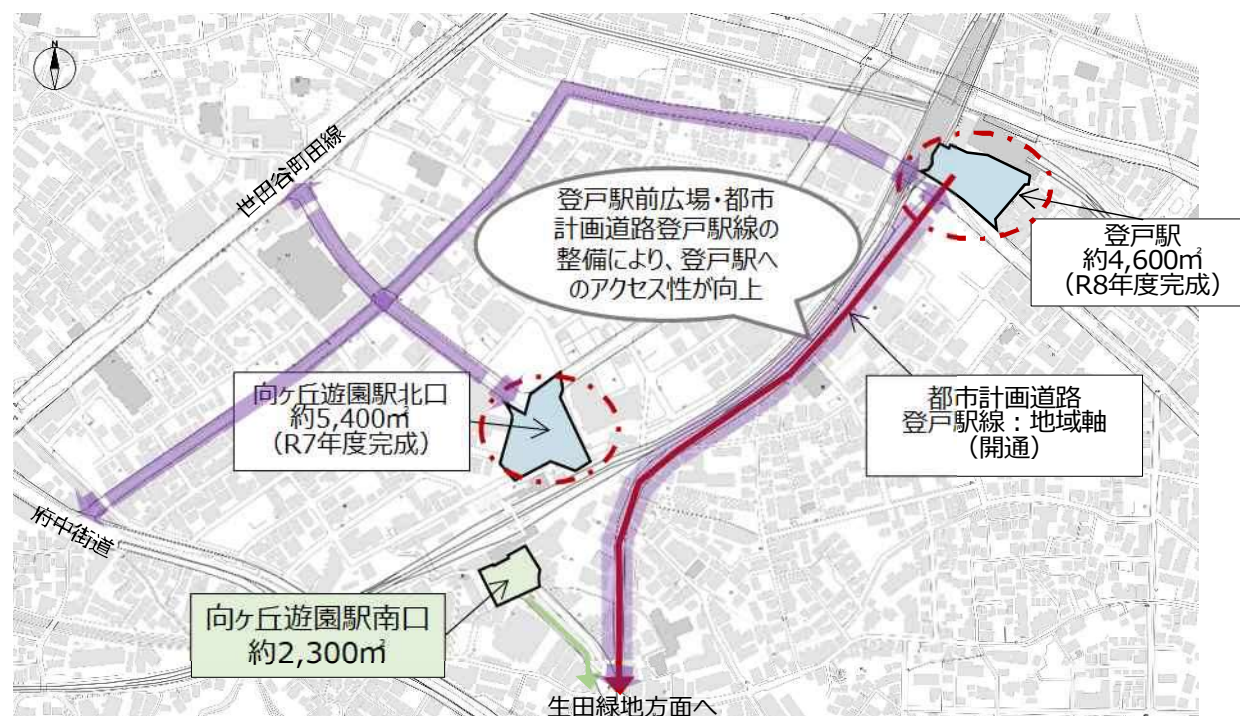
- 駅前空間は、民間の土地利用転換を駅前再編の機会と捉え、都心等の広域方面や生田緑地のアクセス性を踏まえ、周辺交通の円滑化や公共交通の定時性の向上等につながる効率的な交通環境を形成するとともに、駅前にまとまりのある広場を確保し、緑豊かな空間を創出します。
- 周辺の駅前広場との交通機能等の役割分担を整理し、バス等の公共交通、一般車、荷さばき車両、自転車、それぞれの利用特性等を踏まえた機能を検討します。
- 生田緑地等へのアクセス性を高めるため、シェアモビリティ等の活用を検討し、さまざまな移動手段が使いやすい環境を整えます。



登戸駅前広場 鳥瞰図



向ヶ丘遊園駅北口駅前広場 鳥瞰図



周辺の駅前広場配置状況

(2) 大学を活かした“人と人をつなげる”交流拠点

■新たなまちの価値創出に向けた産学官連携の仕組みづくり

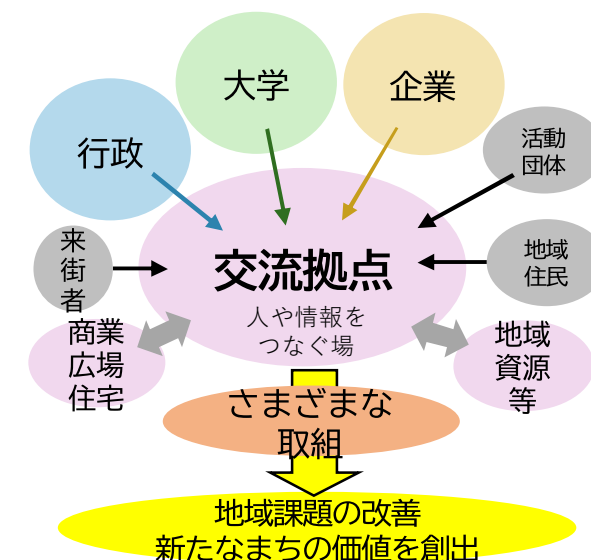
- 企業、大学、行政が連携し、地域に関わる多様な主体が互いに交流し、学び合いながら本地区内の商業、住宅、広場等の都市機能や生田緑地、文化施設などの地域資源等を活かしたさまざまな取組を通じて、地域課題の改善や新たなまちの価値創出をめざす産学官が連携する仕組みを構築します。

■地域の魅力向上と愛着を育む交流拠点の創出

- 交流拠点は、コミュニティ活動の促進や実証的な取組を行うリビングラボ、地域の魅力を伝えるまちのコンシェルジュ機能等を備え、地域住民や活動団体、大学生など多様な主体が集うまちづくりに関わる場を創出します。
- 地域の課題や魅力を共有しながら、地域資源である大学生の若い感性や行動力を活かした活動等を通じて、地域の魅力向上を図るとともに、“人と人のつながり”や“まちへの愛着の醸成”をめざします。

【交流拠点の取組イメージ】

- 【コミュニティ】街の情報や人をつなぐ学生等の活動拠点、コワーキングスペース、市民の生涯学習の場等を創出します。
- 【リビングラボ】さまざまな情報を収集・活用し、地域課題の改善や新たなまちの価値創出につなげるため、生田緑地等の地域資源や街区内の住宅・商業・広場と連携したアイデアの試行や検証を行います。
- 【まちのコンシェルジュ】地域資源である生田緑地や文化施設などエリアの情報を発信して、魅力向上に取り組めます。



産学官連携機能の構成イメージ



業種を超えた多様な交流拠点
(フレキシブルオフィス WeWork)
(出典：WeWork)



街の生活者と共にプロジェクトを創造
(柏の葉リビングラボ)
(出典：UDCK)

3 まちづくりの基本方針

(3) 多世代が向ヶ丘遊園に“住み続けたい”と思える住環境

■生活者のニーズに合わせた暮らし方を受け入れる多様な住宅機能の導入

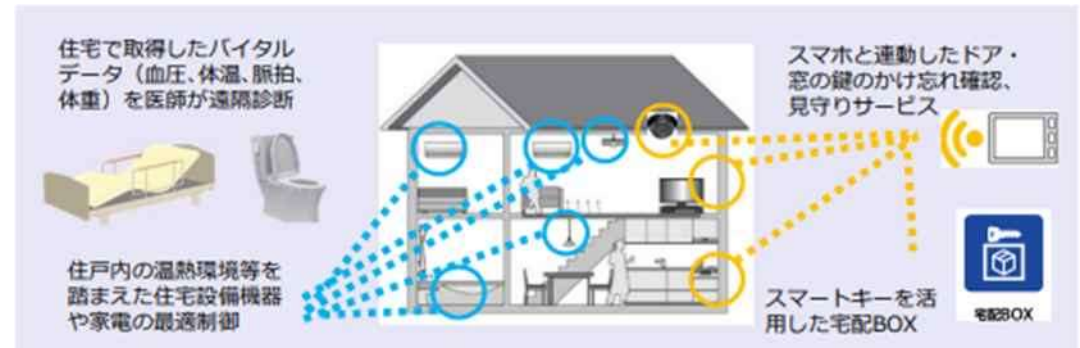
- 分譲住宅や賃貸住宅など多様な住まいの導入を誘導し、単身世帯や子育て世帯をはじめとする多世代が、ライフスタイルやライフステージに応じた住まいを選択できる住環境の形成を図ります。
- 大学、企業などが連携し、生活に関するデータや地域資源等を活かした取組を進め、多様なライフスタイルに対応した暮らしや健康の質を高める快適な住環境の向上をめざします。
- 本地区における住環境の形成を起点とし、若い世代のアイデアや行動力等を活かした取組を本地区周辺にも広げ、周辺に存在する住宅ストック等を活用することで、住まいの循環を促す環境の形成をめざします。
- これらの取組を通じて、このまちで「学び合い・育み合う」機会をつくり、まちへの愛着を醸成することで、「このまちに住み続けたい」と思う人を増やし若者や子育て世帯の定住促進を図ります。



ゆるやかに交わる多機能交流型賃貸住宅
(Well-Blend十条)
(出典：株式会社ビタ)



多様な人々が集まり、学び合う
レジデンシャル・カレッジ
(SHIMOKITA COLLEGE)
(出典：HLAB)



生活のデータを取得しサービス向上のイメージ
(次世代住宅プロジェクト 国土交通省HP)

3 まちづくりの基本方針

(3) 多世代が向ヶ丘遊園に“住み続けたい”と思える住環境

■安全で安心なゆとりあるウォーカブルな歩行空間の創出

- 来街者等を駅前の「人中心の広場」から自然豊かな生田緑地へ誘う、緑豊かな緑道を形成します。
- 沿道の店舗と一体となった空間づくりを進め、みどりや文化を感じながら、子どもや高齢者をはじめ、誰もがゆとりを持って楽しめる、ユニバーサルデザインに配慮した、安全・安心な歩行空間を創出します。



歩行空間イメージ
(立川グリーンスプリングス)

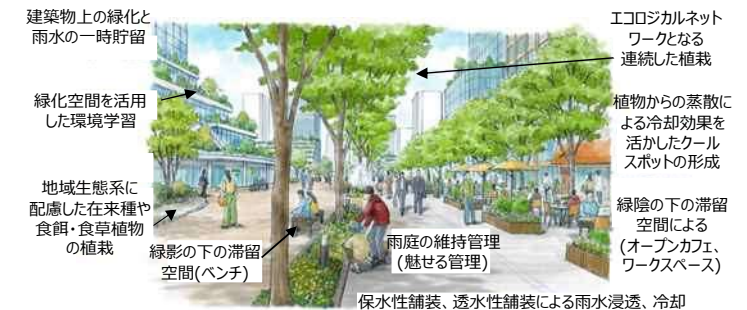


歩行空間イメージ
(赤坂インターシティAIR)
(出典：赤坂インターシティAIR HP)

■地域の防災力の向上や環境配慮につながる機能の導入

- 緑地帯などのグリーンインフラの活用により、温熱環境の改善、雨水流出を抑制するなど、気候変動に対応した防災機能の強化を図ります。
- 地域の安全性を高めるため、一時避難場所となる広場やオープンスペースを創出することで、災害に強く、安全・安心に暮らせる日常の利便性と非常時の防災機能を両立させた環境の形成を図ります。
- 再生可能エネルギーの活用や、省エネルギー建築物の導入を誘導し、温室効果ガスの排出削減に向けた取組を推進します。
- 木材利用や資源の循環利用など、サーキュラーエコノミー※の考え方を取り入れ、環境負荷の少ない持続可能な都市空間の形成をめざします。

※資源を循環させて持続可能な社会をめざす経済モデル



グリーンインフラ実践ガイドより（国土交通省HP）



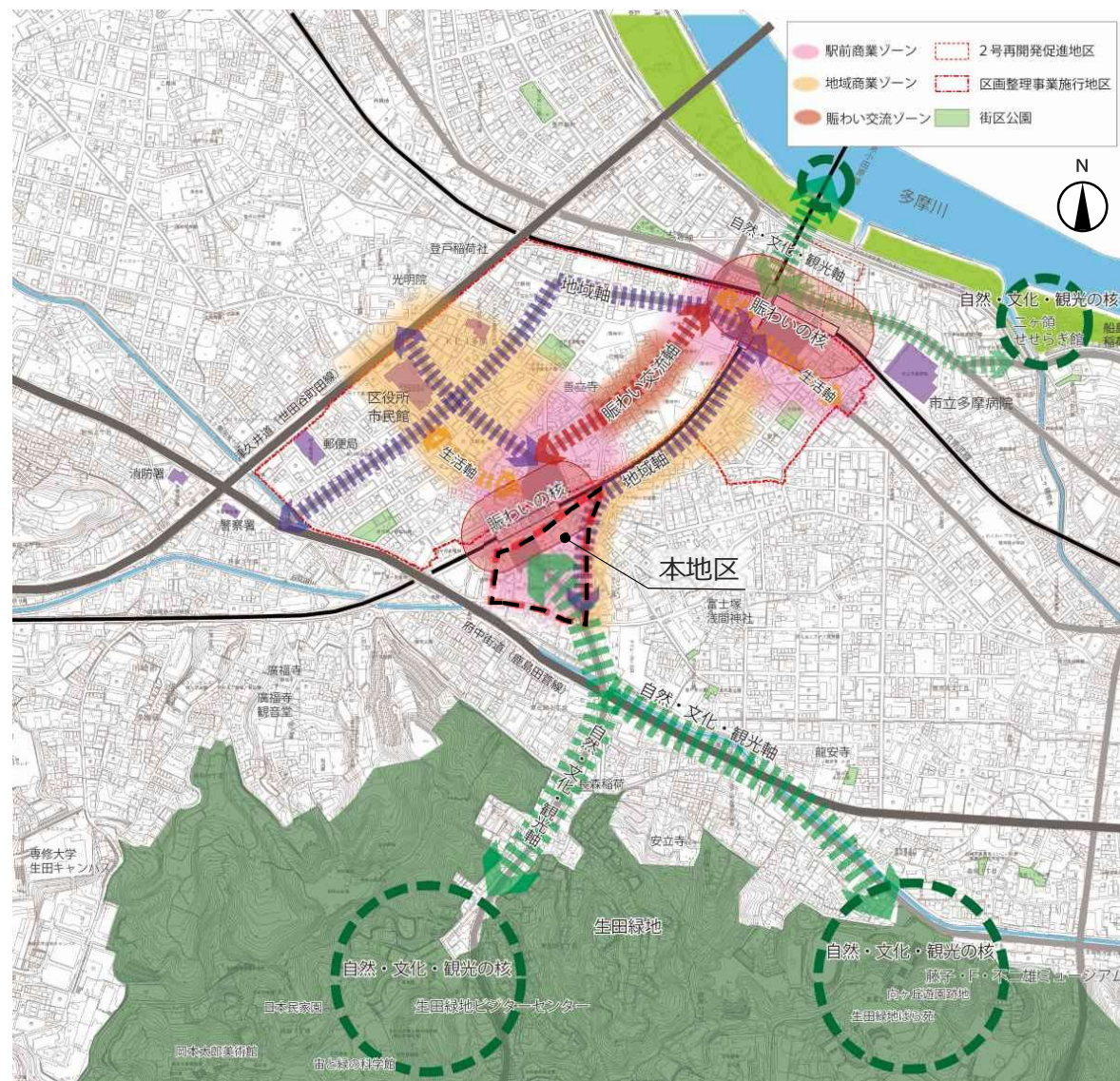
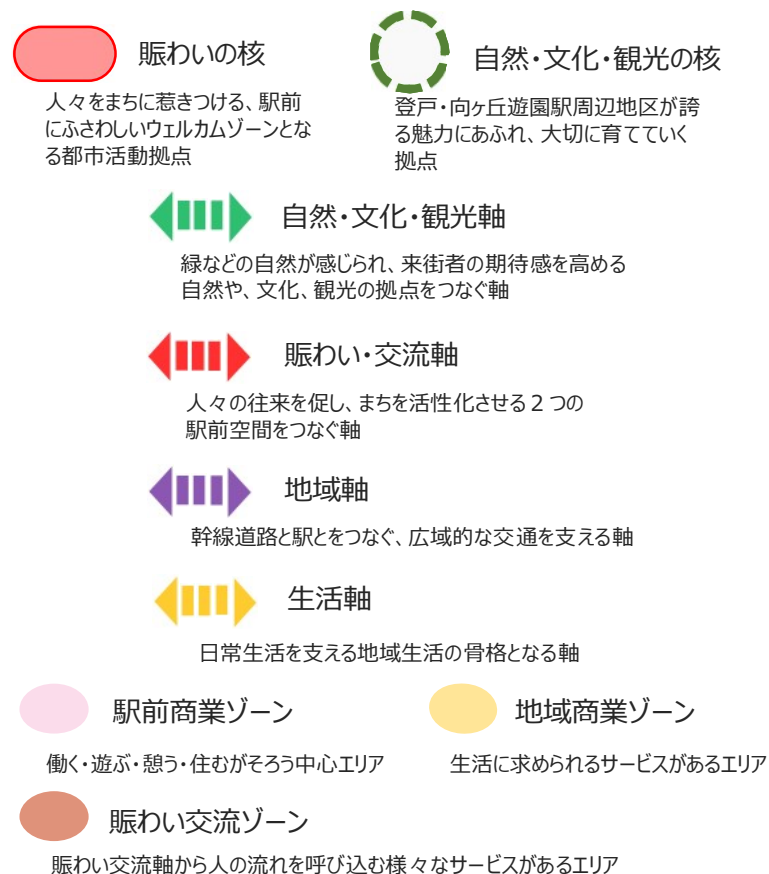
木材利用事例（川崎市生田保育園）

4 方針図（駅前空間ゾーニングイメージ）

向ヶ丘遊園駅南側まちづくり方針【概要版】

（1）まちの概念図（ビジョン）

○ 本地区は、ビジョンにおいて、駅前の賑わいを形成する「賑わいの核」、自然・文化・観光の拠点をつなぐ「自然・文化・観光軸」、幹線道路と駅をつなぐ広域的な交通を支える「地域軸」として位置づけられています。



まちの概念図（ビジョン）

向ヶ丘遊園駅南側まちづくり方針【概要版】

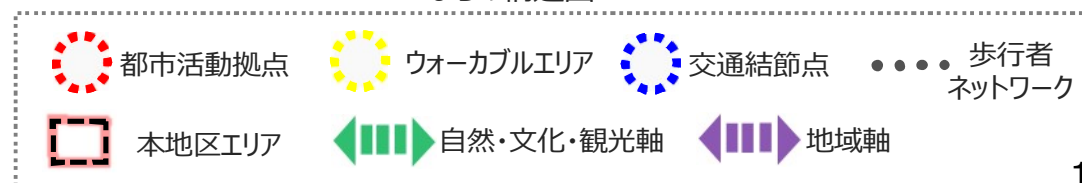
○ 登戸駅前や向ヶ丘遊園駅北側は、ビジョンで位置づけた「核」や「軸」の実現に向け、「交通結節点」となる駅前広場の整備とあわせ、建物の共同化による都市機能が集積した「都市活動拠点」の形成と、人々が歩きたくなる通りや滞在できる広場等を備えた「ウォーカブルエリア」の形成に向けた取組を推進してきました。

○ 向ヶ丘遊園駅南側は、登戸駅前とつながる広域的な交通を支える「地域軸」が位置づけられていることを踏まえ、当該地域軸を経由して両駅の接続性を高める位置に「交通結節点」を配置することで、都心等の広域方面や生田緑地のアクセス性向上も視野に入れながら、両駅の役割分担を整理し、交通機能連携の強化を図ります。

○ 本地区は、ウェルカムゾーンとなる「賑わいの核」と自然や、文化、観光の拠点をつなぐ「自然・文化・観光軸」が位置づけられていることを踏まえ、「都市活動拠点」と生田緑地へつながる「ウォーカブルエリア」の一体的な形成を推進します。

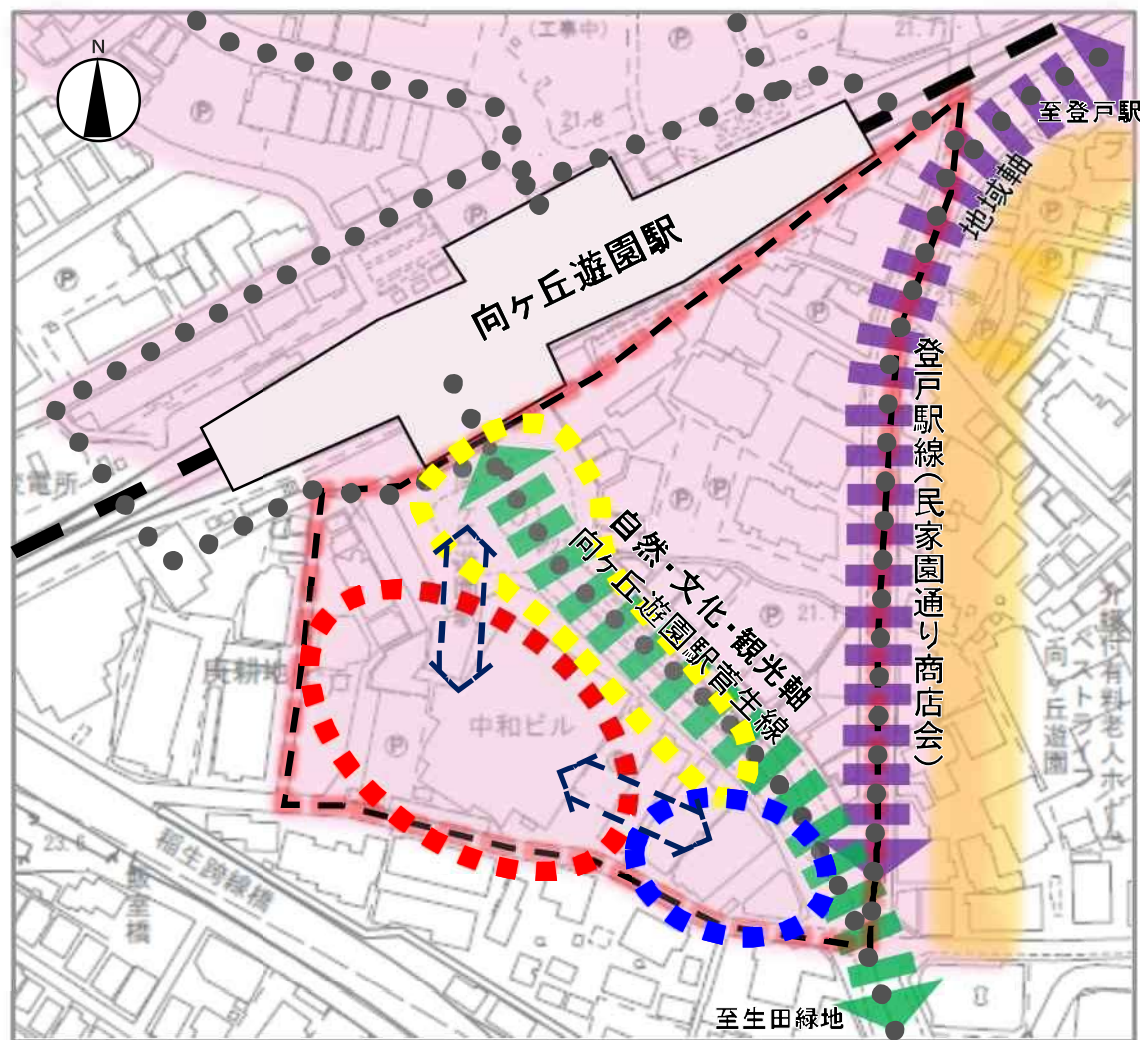
○ 駅南口から生田緑地への期待感を高めるため、生田緑地へつながる「歩行者ネットワーク」を形成するとともに、駅南北での役割分担や機能連携を図ること、地域の魅力の向上をめざします。

まちなみの構造図



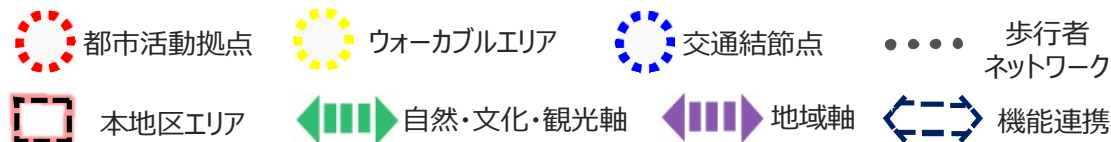
（3）まちの構造図（本地区内）

- 交通結節点は、公共交通の定時性向上に加え、一般車・荷さばき車両・自転車の利用を考慮した交通機能を整理し、周辺交通の円滑性向上につながる効率的な交通環境を形成します。
- 都市活動拠点とは、地域資源を活かしながら、商業・業務・交流・住宅などの多様な都市機能の集積を誘導し、まちの魅力を高め、活気を創出します。
- ウォーカブルエリアとは、都市活動拠点と連携し、地域住民、来街者など多様な人々が交流し賑わいが生まれる広場や歩行空間など生田緑地の玄関口にふさわしい駅前空間を創出します。
- これらの拠点や機能を歩行者ネットワークで有機的に結び連携することで、人々の回遊や滞在を促すとともに、安心・安全で快適な住環境を形成し、“賑わいと暮らしやすさ”が調和するまちづくりを推進します。



まちの構造図（拡大図）

川崎市発行地形図（令和6（2024）年度）



（４）方針図※（駅前空間ゾーニングイメージ）

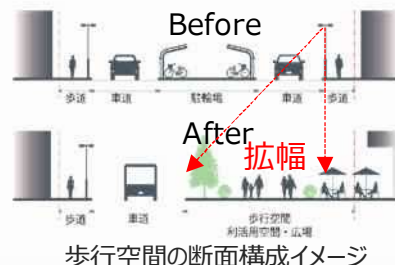
生田緑地の玄関口にふさわしい駅前空間

【人中心の広場空間】

みどりを感じる広場を整備し、地域の人々や来街者の交流や活動を創出

【生田緑地へ向かう緑道】

期待感を高める緑の連続性と、沿道商業と一体感のある歩行空間の創出



まちの魅力と活気を高める多様な都市機能の誘導

【交流機能】

地域に関わる多様な主体が集う広場空間と連携した交流機能の配置

【賑わい機能】

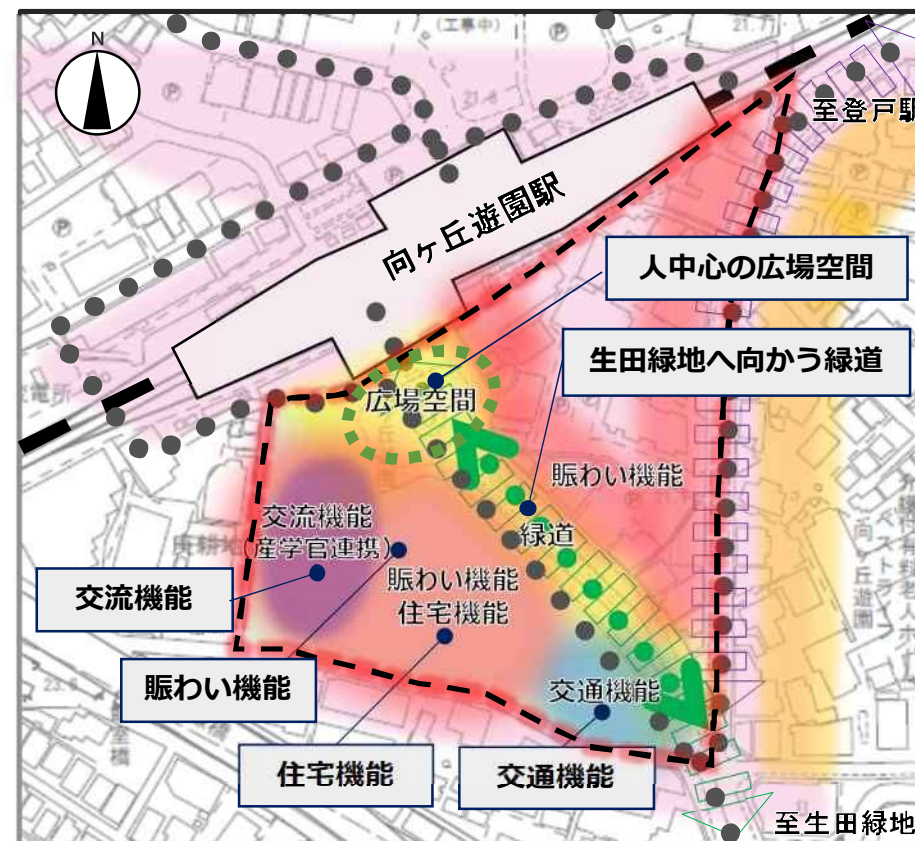
商業・業務機能、生活利便サービス施設の立地など駅前にふさわしい賑わい機能の配置

【住宅機能】

生活者のライフスタイルやライフステージに応じた多様な住宅機能の配置

【交通機能】

利用者の安全性等を踏まえた交通機能の配置



方針図（駅前空間ゾーニングイメージ）

川崎市発行地形図（令和6（2024）年度）

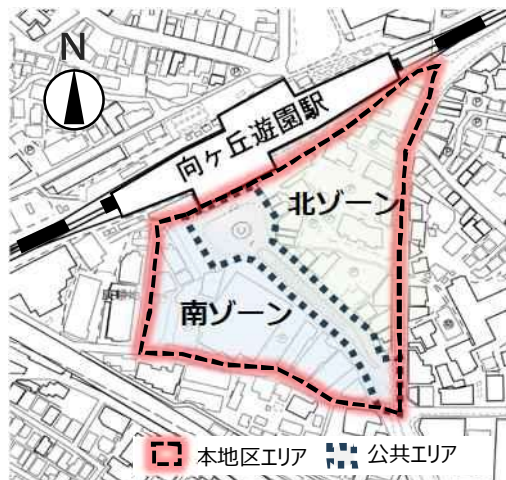
歩行動線を活かした機能連携

各機能の連携と、駅から交通機能（バス乗場等）までの歩行距離を活かし、その動線に広場や緑道、商業・交流機能等を配置することで、人々の回遊を生み出し、滞在や交流、消費につなげる駅前空間の形成

※ 方針図：まちの構造図等を踏まえて、誘導する機能のイメージを駅前空間のゾーニングとして示すもの。



(1) 区域設定とまちづくりの進め方



本地区 区域設定

川崎市発行地形図（令和6（2024）年度）

(区域設定)

- 本地区は駅周辺の商業地域を基本とし、民間の土地利用転換等の機会を捉え、生田緑地の玄関口にふさわしい駅前空間の形成をめざし、段階的にまちづくりを推進するため、南ゾーンと北ゾーンを設定します。

(南ゾーン)

- 南ゾーンは、官民連携による駅前空間の再編をめざし、建物の共同化による敷地の有効活用を促し、商業・住宅など多様な都市機能の集積を図るとともに、公共エリアと一体的に道路や駅前広場等の都市基盤の整備を進め、生田緑地や大学などの地域資源を活かしたまちづくりを推進します。

(北ゾーン)

- 北ゾーンは、南ゾーンで進められる駅前空間の形成や地域資源を活かした取組を踏まえ、まちづくり推進に向けた検討を進めます。

(2) スケジュール

	短期（おおむね5年以内）	中期（おおむね5～10年）	長期（10年以上）
駅前広場の再編整備 （公共エリア）	・社会実験の実施	・駅前広場の整備	
南ゾーンのまちづくりの推進	・建物の共同化に向けた取組推進		
北ゾーンのまちづくりの推進	・まちづくりの推進に向けた検討		